

守ろう！ 私たちの大切な地球を



岡山市・鹿田小4年 神田 咲蘭

ツバルという国が十年後に沈むと言われている。記事には、この百年間に海面が最大で二センチも上昇し、このままだと二八〇年後には海面が五メートル以上も上昇するとあった。地球温暖化で氷河が溶けているからだ。私はもっと詳しく知りたくて環境省のホームページで調べてみた。海面が六五センチ上昇すると岡山の砂浜は完全に消失し、また、一メートル海面が上昇すると東京都江東区・葛飾区・江戸川区・墨田区のほぼ全域が水没する危険があるとあった。大変だ。これはツバルだけの問題ではないとこわくなった。

い、最初に取り決めた国際ルールが京都議定書だ。これは、一九九七年に京都で開催された国連気候変動枠組条約第三回締約国会議で採択されたため、「京都」の名がついた。議定書では、各国が排出してよい温室効果ガスの量を決めた。私は、各国が少しでもその量を下回るように努力するのかと思っただが、実際は排出量を取引して全体の排出量を超えないようにするだけで、がっかりした。地球全体で考えたとき、こんなことをしているのは大きな変化にはならない。

た。私は、みんな自分のことしか考えていないからこんなことをするのだと思った。様々な考え方をする地球上の国々の考えをまとめるのは大変なことなのかもしれない。けれど、地球は人間の住める唯一の星だ。もし地球に住めなくなれば、人間は生きることができない。私たちは全員地球人だ。この地球温暖化を止められるのも私たちしかない。私たちが一人一人が地球人の問題としてこのことをとらえ、協力して取り組まなければ決してうまくいかない。のんびりしているひまはない。みんなで大切な地球を救うという大きなミッションを成功させなければいけない。

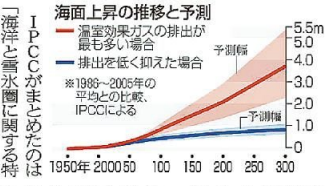
地球温暖化という大きな問題を身近なことから捉え、現在の対策の不十分な点を指摘。地球上の誰もが協力して取り組まなければならないことを、シンプルな言葉で訴えています。

寸評

海面上昇1メートル強 氷河激減

IPCC 温暖化で今世紀末 特別報告書

地球温暖化が進むと今世紀末に海面が1メートル以上上昇し、高潮や巨大台風により、世界の氷河は40%以上失われる恐れがあると警告した。IPCCは「温暖化抑制特別報告書」で、国連の気候変動に関する政府間パネル（IPCC）が25日、公表した。用といった社会のあらゆる懸念を示している。



別報告書。これによると、海面上昇の推移と予測。温室効果ガスの排出が最も多い場合、予測される海面上昇は最大5.4メートルと推定されている。排出量を低く抑えた場合、予測される海面上昇は最大1.1メートルと推定されている。IPCCがまとめたのは「海洋と雪氷圏に関する特別報告書」。これによると、海面上昇のペースが加速している。報告書は、海水温の上昇により、海の生態系に深刻な変化が出るとの予測を示した。今世紀末までに氷が解けやすくなり、山の氷河や多氷河、今世紀末に20世紀末より最大1.1メートル、世界全体で海洋生物が最大20%減り、漁獲可能な魚の量は最大24%減少すると見込まれた。白化によるサンゴの減少が予想され、魚介類の減少や海岸線の浸食、潮を受けることとされた。